



# 学校生活における生成AIの活用 ～ICTの教育への応用と可能性～

松川高校  
生徒会

# 生成AIを使ってみて

- 知りたいことを聞けばすぐに教えてくれるので便利だと思った。
- 箇条書きにしてまとめてあってわかりやすかったけれど書いてある内容が難しかった。
- どんな条件を与えても答えてくれたので楽しかった。
- 一つの質問に対して多くの答え、選択肢をくれていいと思った。
- 時間短縮

# 生成AIを使ってみて

- 返答が迅速で、リアルタイムな対話が可能  
幅広いトピックに対応しており、知識が豊富
- 文章の生成が自然で、読みやすい  
時には意図しない回答や誤った情報を提供することがある
- ユーザーの入力に依存しているため、明確な指示や質問が必要
- ユーザーの感情やニュアンスを理解する能力には限界がある

# 学校でどのように活用していくか

- 司会者の台本
- アイスブレイクを行うための内容をランダムで考えてもらう
- 生徒それぞれのレベルにあった問題を考えてもらう
- 個人的に疑問に思ったことを質問できる。

# AIを使うことでの成長や学び

- 司会者の台本を考えてもらった場合  
言い方の表現の仕方を学ぶ事ができ、  
今度自力で考える時にその学びを生かし、  
よりよいものが作れるようになる。
- 問題を作ってもらったことで、その問題を解き、  
それが学びになり、成績が上がったりする

など...

# 生成AIの注意点

- ・ 文を考えてもらった時にわからない単語があるのに調べずそのまま使ってしまうこと。
- ・ パソコンやスマホに没頭してしまう。
- ・ 感想文を考えてもらって自分では何もせず楽をしようとする人が出る可能性。
- ・ 思考力が落ちる。

# 注意を踏まえた上でどのように活用していくか

- 生成AIを使用した時、分からない言葉があったら調べるようにする。
- 文を考える問題や課題で生成AIを使っても良いようにするが全て写すことはいけないというようにする。
- 生成AIをずっと使用しているのではなく、先生に指示された時に使用する。

# 生成AIを使ってもらうためには？

- ・ 授業の一環として生成AIの使い方を学ぶ
- ・ 答えが曖昧な質問があったときに使用する
- ・ 授業で生成AIを使ってもいいように  
してもらう



# 活用案

- 全校ディスカッションの台本づくり  
議題、アイスブレイク
- 小論文の参考
- 調べ学習
- 英語の時間のプレゼンテーションづくり